

平成25年4月12日

新宿区長 へ

法人名 特定非営利活動法人ビーマップ  
所在地 新宿区下落合 2-6-20-205  
(フリガナ) セオ アキヨ  
代表者氏名 理事長 瀬尾 亜希子

## 事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

## 記

## 1 助成対象事業

事業名	みんなのバリアフリー映画上映プロジェクト
実施日時又は期間	平成24年6月27日から平成25年3月17日（10か月）
対象者の範囲及び人数	新宿区民（高齢者、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、小中学生を含む）800名余り
事業内容	新宿区内の公共施設（区民ホール、地域センター、高齢者・障害者福祉施設など）にて、自主制作のバリアフリー映画の上映会を実施
具体的な活動状況	<p>本プロジェクトは、上映作品、場所、規模、主な対象者などを変えて、年齢や障害の有無に関わらず、みんなで一緒に映画を楽しめるようバリアフリー化（情報保障）した作品を上映。音声ガイド台本は自主制作し、日本語の吹替えやナレーションのライブ、企画から運営・実施まで、正会員である専門家や技術者、経験者が担当。映画監督の講演、トークショー、参加者との懇談会なども適宜交えて、バリアフリー映画をみんなで一緒に“観て、聴いて”楽しんでもらい、感動を共有できる機会を提供。</p> <p>小中学生を含む一般区民対象に3回、高齢者対象に4回、障害者対象に2回、10か月間で9回のバリアフリー映画上映会を、区民ホール・地域センターで有料3回、高齢者・障害者福祉施設は無料で6回、主に福祉を目的とした区民参加の地域活動として実施。</p> <p>（添付資料参照）</p>

事業の成果	<p>上映作品を厳選し会場やテーマに配慮した結果、回を重ねる度に参加者の数も増え、参加費の有料・無料の別なく実施後半にかけて会場はほぼ満席の盛況。バリアフリー映画に関する区民の高い関心と好評価の後押しで、区内の企業や商店、町内会などから無償の協力支援も実現し、協働事業本来の目的に近い成果が得られたプロジェクトの実施となった。</p> <p>協働推進基金助成事業としてバリアフリー映画上映会を継続的かつ広範囲に実施したことで、ビーマップの活動への理解や支援が新たに得られ、区立福祉施設（障害者福祉センター、信濃町シニア活動館、山吹地域交流館）から25年度以降恒例の上映会にしたいとの要望が届いている。また、ビーマップの活動を支援する区内外の障害者福祉団体数も増え、同プロジェクトの上映会の後援を始め新たな協力支援体制が整いつつある。更に、映画製作会社（上映使用料の免除・減免）やマスコミ数社（テレビ・ラジオでの企画放送）の特別支援も得られ、今後の活動を推進する上で強力な支援と期待できる。</p> <p>映画の感動を共有できるバリアフリー化（情報保障）した作品上映とコミュニケーションを広く一般区民にも体験してもらい、社会の様々な“バリア”や情報保障上の課題を発信し、ビーマップの活動の理念と目的を具現化できたことは意義深い。正会員の目的意識も向上し、本プロジェクトの実績を基盤として、NPOの枠組みにとらわれない広範囲な社会貢献活動を展開できる。</p>
-------	--

## 2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

	経 費	積算根拠（内訳）	金 額
収 入	団体負担金		3,600円
	参加費・資料代等	第2回500円×58名＝29,000円 第5回1000円×191名＝191,000円 第8回170,500円 （1000円×146名＝146,000円 500円×49名＝24,500円） （添付資料1参照）	390,500円
	その他の収入	寄附18,200円 冊子販売 1000円	19,200円
	協働推進基金助成金	助成金申請額	500,000円
	計		913,300円

支出 (助成の対象になる事業費の内訳)	費目	決算額	内 訳
	会議費	174,100円	1. 戸塚地域センター・多目的ホール 午前、午後1・2 リハーサル・有料上映1回 6,600円 2. 牛込笹笥地域センター・コンドル 午後1・2・夜間練習1回 6,500円 3. 角筈区民ホール 午前・午後 有料上映1回 ホール 55,800円 楽屋・附帯設備 22,800円 4. 牛込笹笥区民ホール 午後 有料上映1回 ホール・楽屋 65,200円 附帯設備 17,200円
	宣伝費	137,638円	色刷チラシ・パンフレット 107,808円 《チラシ-A4 (11,000枚) 71,245円 パンフレット-B4折 (300枚) 18,263円 チケット-ミシン目 (700枚) 18,300円》 デザイン代 3種 21,000円 点字チラシ 700枚 3,800円 白黒チラシ 2000枚 5,030円
	リース費	45,000円	機材・搬入 5000円 x 9回 = 45,000円
	消耗品費	12,677円	封筒代 2,724円 コピー用紙・事務用品代 9,953円
	謝礼	12,000円	手話ボランティア謝礼 3000円 x 2人 x 2回 = 12,000円
	人件費	156,000円	1000円 x 4h x 39人 = 156,000円
	材料費	240,776円	映画使用料 100,000円 (講演料込み) 1回 吹替え録音 1回 136,500円 映画DVD 4,276円
	交通費	1,360円	手話ボランティア 計1360円
	その他諸経費	51,924円	郵便代 40,680円 宅配・メール便料金 9,354円 銀行振込手数料 1,890円
助成対象事業費 (小計)	831,475円		
余 剰 金	0 円		
助成対象外事業費	81,825円	上記人件費に含まない額 1000円 x 3h x 17人 = 51,000円 監督飲食費 3,500円 吹替え協力者謝礼 20,000円 抽選商品代 7,325円 (クウ、猫、クッキー他)	
事 業 総 額		913,300円	

### 3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
<p>事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。</p>	<p>バリアフリー映画観賞（音声ガイドはライブ）体験を通じて、障害の有無、年齢・性別の別なく感動を共有できるバリアフリー映画が認知され反響も大きく、社会的有用性の評価が得られた。また、協働推進基金助成事業を展開する上で大切な地域の参加・協力支援など運営面での課題の克服もほぼ達成でき、今後の活動の進展に繋がるプロジェクトの実施と評価する。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<p>障害や年齢を越えて楽しめる“心のバリアフリー化”を同時に発信したことで、情報保障の社会的必要性と課題への相互理解が進み、社会的弱者のコミュニケーションの手段や社会インフラ整備の喚起などに繋がる。</p> <p>今後予見される動画の情報保障制度の進展（バリアフリー化のうち字幕は数年内に達成義務化）に伴い、音声ガイド・字幕制作者・技術者の育成と促進が地域社会の活性化に繋げられる効果も期待できる。</p>
<p>費用対効果は適正であったか。</p>	<p>利用料が高額な区民ホールや地域センターでの上映会は、費用対効果のため初の有料上映とした。宣伝・告知にマスコミ、協力団体や地域組織の支援協力を仰いだ結果、有料にもかかわらず満席に近い盛況となった。</p> <p>費用の大幅な削減（特に材料費は少なく見積もって50万円以上）は、主に映画業界関係者の特段の協力（映画使用料の免除・軽減、機材レンタル料の減額、吹替え事前録音など）や正会員の膨大なボランティア（音声ガイド台本制作と練習で未計上の人件費）で実現したことを特筆したい（費用を計上する都合で、助成金の依存度が高く表示されてしまうが、こうした免除や自助努力が実績の数字に正しく反映されていないことを注記したい。）</p>
<p>新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。</p>	<p>外注の色刷りチラシ・パンフレット・チケットなどの印刷代がかさみ予算オーバーで今後の運営面の課題。最終上映会までに、会員が技術を習得して図案を製作し、協賛企業に無償で印刷物を提供してもらうことで費用軽減に繋げた。</p> <p>NPOの自助努力では大規模な宣伝や告知は難しく、地域組織や公的機関、後援団体のネットワークを最大限に利用する対策が必要であり、事業後</p>

	<p>半から実践。</p> <p>会場とした各所ともバリアフリー映画上映には附帯設備が不十分なため、必要機材はレンタル対応し搬入と専門の技術者による作業を仰ぎ上映可能な状況にこぎつけた。今後は区立のホールの設備にDVDプレーヤーなどを標準設置機材とすることが望まれる。</p> <p>区民ホールの施設については、可動式の椅子・車椅子用ワゴンの駐車場など様々な障害者への配慮と対応設備の充実が望まれる。また、半年前の予約抽選のため、制作・上映の計画は1年以上前から取り掛かる必要があり、前払い・キャンセル料も考慮しての資金繰りや運営面での課題である。</p>
<p>理解者や支援者が広がったか。</p>	<p>新たに後援団体（受益者団体）を獲得し、バリアフリー映画の認知を高めることで観客数は回を重ねるごとに増加し、後半はほぼ満席に近い盛況となった。バリアフリー映画の意義と有用性を説明し、地元地域や企業のCSRの協力を仰ぎ、支出費用の軽減のみならず協力支援の輪を広げることができた。</p> <p>区立の福祉施設・高齢者施設から、25年度の定期的上映会の申し入れ（企画・日程の調整中）。</p> <p>上映作品の制作委員会や配給会社には、情報保障と福祉目的の上映実施を理解して貰い、映画使用料の免除や軽減を要請し、9回中8回（見込みも含めて）までは使用料の免除が実現した。</p> <p>年齢・性別・障害の有無なく、サポーターの獲得に繋がり、上映作品の要望も直接届いている。</p>
<p>事務局の執行体制は十分だったか。</p>	<p>運営事務局は、正会員である経験者、専門家、技術者で編成された既存の組織をフル稼働した執行体制を活用し、不足は外注又は他のNPOや専門家の支援を仰いだ。何よりも正会員の自発的・建設的なボランティアと貢献が、スムーズな運営と目的の達成を可能にし、費用の大幅な削減につながった。</p> <p>作品のテーマを上映会対象者に合わせて厳選し、既上映の作品を組み合わせることで、音声ガイド台本制作や練習にかかる正会員の膨大な負担を軽減し、過密な年間スケジュールを滞りなく完了できた。</p>

<p>今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。</p>	<p>映画製作委員会中心に、情報保障と福祉目的活動の使用を説明し、高齢者や障害者向け上映については無償提供を実現し、材料費（有料・無料に関わらず通常発生する映画使用料）は大幅に軽減できた。</p> <p>区民ホール上映は初めて参加費を徴収し、既協力団体や福祉団体にも働きかけ後援・告知の協力を取り付け、観客数と参加費収入の拡大を図り収支の改善に取り組んだ。従前から、国・都・区立の公共団体に施設の使用（無料）を助成事業に関わらず働きかけている。</p> <p>今回後援・協賛して貰った団体の他に、協力支援先の業界や企業、国立フィルムセンター、マスコミなどと従前から緊密な関係を築いており、本プロジェクトの実施に際しても、無償提供を含めた特段の協力を仰いだ。</p>
<p>その他</p>	

#### 4 活動の成果

- \* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
- \* 参加者の意見なども報告してください。

障害、年齢・性別の区別なく、みんなでバリアフリー映画を“観て聴いて”楽しむ上映会は、区民の反共も大きく予想を上回る参加者数となり、協働事業の目的と成果は十二分に達成できたと総括できる。（成果の詳細については下記の添付資料を参照）。

資料1 実施一覧

資料3 上映会当日実施に従事した会員の氏名と記録

第1回から第9回までの上映会に関して：

チラシ・パンフレット・チケット(ある場合のみ)

進行表（全9回）

ブログ+写真(全9回)

アンケート(有料上映会3回)